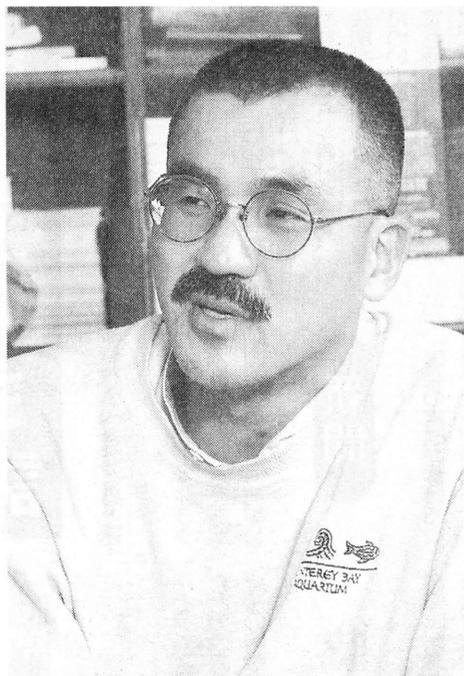


# 人と仕事

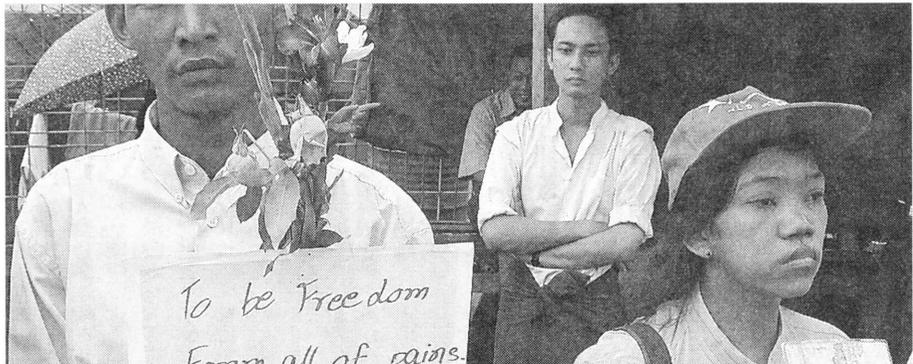
昨年第1回黒田清J.C.J新人賞を受賞した報道写真家の宇田有三さんは、10月にビルマ取材から帰国。「ジャーナリストはジャーナリスト論を語らず、作品で勝負すべきでは」という宇田さんだが、現場取材だけでなく、大学院で学び、ビルマに関する政策では研究者と論争できるくらい理論武装もしていたという。(写真は宇田さんの作品)



黒田新人賞後の活動

## 宇田有三さん

宇田有三(うだゆうぞう)1963年神戸市生まれ。90年、27歳で教職を辞し、フォトジャーナリズムの勉強のため渡米(ポストン)。92年中米の紛争地エルサルバドルの取材を皮切りにフォトジャーナリストとしての仕事を開始。現在、東南アジア、中米、オーストラリアを中心に軍事政権下の人々や先住民族を中心にドキュメンタリー写真を撮影し続ける。95年神戸大学大学院国際協力研究科修了。法学修士。98年「平和・共同ジャーナリスト基金」奨励賞、01年「視点」奨励賞など。



—受賞後のお仕事から。

宇田 ビルマに1年ほど行ってきました。これまでも何回も困境取材などをしました

紀は戦争の世紀だったという記事で、ビルマのことにふれたものを見たことがない。忘れられた内戦です。

が、ビルマの長期取材は初めてです。最初の3カ月はビルマ語の学習。もちろん込み入った質問はできませんが、少しでもビルマ語を話すと、ビザを更新するときに、担当部署にも印象がよくなります。スーチーさんに注目が集まりますが、軍事政権下の普通の人の人々の暮らしを見たかったのです。

ただヤンゴンなどに行くとみると、フロンペンなんかより豊かに見える。軍政の影響はなかなか見えない。戦前の日本でもね、東京だけ見れば豊かで人々は親切で、一方で軍部が侵略していたなんて思えなかったんじゃないか。若い人などにはそう説明してしま

す。将来、軍政はそんなに悪くなかったと言われないうちに、記録を残しておきたい。内戦、地域紛争には宗教戦争、民族戦争などいろいろあります。取材すれば私の場合、中立といったもどちらかに入れこみそうです。それなら軍政下の民衆がいかに危険なことですが、それでも声をあげる人々がいる……。

最初中南米をテーマにしたのでしたね。宇田 はい。27歳でアメリカのポストンに写真の勉強に行ってきたころ、よくデモがあり、私は写真の勉強でデモを撮影してました。その一つにエ

# フリーでやるにもこだわりが ビルマなど第三世界の現実 ビジュアルに記録を残したい

ルサルバドルで司教たちが殺されたことに抗議するデモがあったのです。多くの報道人が取材していました。ところがその後2周年のデモで、写真で取材に来たのは、私ひとりでした。それから中南米を取材し始めたのです。

材し、子供たちの目は輝いていた、とみんな言う。そこにとどまらず、なんでこの人たちが貧困なのか。そこを問う写真でなければダメじゃないか。

—中南米、東南アジアから見ればグローバル化がはっきり見える？

中南米ではアメリカの存在が巨大です。自分たちの民主主義が正しいのだと押し付けるアメリカは、とんでもないですね。

—それから東南アジアへフィールドを広げた。

宇田 中南米でも東南アジアでも、社会の矛盾は相似形です。土地問題ですね。農村で土地を失った農民が都市に流入し貧困層になる。世界史でも古くからの問題です。多国籍企業など新しい要素もありますけど。

去年の受賞式スピーチでも言ったんですが、スラムを取

宇田 偉そうに言えば、冷戦後の世界はどうなっているのか、ということですけど。僕の場合はそれをテキストクウェイという写真家の展覧会を見て、写真でもここまで表現できるんやと感動しましたから。

外国の新聞は写真の扱いも大きくて、テキストは短い場合よくあります。アメリカで「お前、日本に帰るな。日本に帰ると説明写真になる」と言われました。日本では紙面を作る責任者

—でも日本では海外ニュー

—アメリカで「お前、日本に帰るな。日本に帰ると説明写真になる」と言われました。日本では紙面を作る責任者

—アメリカで「お前、日本に帰るな。日本に帰ると説明写真になる」と言われました。日本では紙面を作る責任者

—アメリカで「お前、日本に帰るな。日本に帰ると説明写真になる」と言われました。日本では紙面を作る責任者



で語られた不利な条件、関西・フリー・報道写真を貰く？

宇田 東京へ移ったらマスメディアのシステムにもっと組み込まれてしまつてしまう。フリーでも共同してやっている人はいて、僕の場合は、僕に協調性がなければいけないんですけど。竹中労にたしか「群れると弱くなる」という言葉があった、それが好きなのです。

「ヤラセ」をしなくなることもあるのですが、絶対にしない。自分だけでなく被写体が嘘に思われるのはいやですから。

—— J・C・J賞新人賞を受賞して、なにか変化は。

宇田 報道関係の人は、受賞を知っている人が多く、なんでも新人賞なの？とも言われました。僕は写真を始めたのが遅く、新人といわれても違和感はありません。

大学やNGOの集まりなんかで講演する機会もあって、そういうのは受賞の効果かなアと思います。

ホームページも開いています。1カ月間で60万のヒットがありました。30カ国以上から反応がありました。「作品に感動した」と言われると励みになります。

写真 植木純生  
聞き手 保坂義久

### 『東海ジャーナリスト』

J・C・J東海地区連絡会議は「東海ジャーナリスト」第63号を発行した。「国民生活世論調査の結果から何を読むか」との大西五郎さんの巻頭言をはじめ「8・15」集会の講演などの大要「平和を愛する農耕民族への回帰を」「映画好きの夢から育った大映祭」「刑務所事件報道、J・C・J賞を受けて」「松尾博文さんの急逝、3氏が追悼文」などを掲載している。

問い合わせは0552・531・7284加藤剛まで。

### 香川支部例会

J・C・J香川支部は11月26日(水)午後7時から茶房「四季」で「デジタルって何だ」メディアの在り方を考える「あなたの周りで、デジタル化はどうなっていますか。メディアは本来の役割を果たしていますか」をテーマに11月の例会を開く。参加費5000円。問い合わせは087・8822564今岡重夫まで。

出版ネット関東寄り合い&忘年会  
フリーの記者はかりを訴える武富士裁判、大手メディアは巨額のCM料で「買収」、

独自に報道したフリーランスと週刊誌には高額賠償を迫る武富士の言論封殺(マスコミ対策)とは

話者：北健一さん(ジャーナリスト)『週刊金曜日』に同時ルポ・武富士裁判」連載中)・三宅勝久さん(ジャーナリスト/花伝社)「サラ金・ヤミ金大爆発」著者  
日時：12月10日(水)19時(20時30分忘年会)

会場：神保町・すずらん通り「浅野屋」※地下鉄半蔵門線神保町駅A7出口徒歩1分  
03・3291・0237  
参加費：4000円程度(忘年会参加費込み) 寄り合いのみの参加費は一般500円(組員無料)

要申込み、12月8日(月)までに、お名前、「組員」「一般」の別、「ご連絡先」と「寄り合い」と忘年会「寄り合いの

み)のいずれかを明記し、メールかFAXで左記まで。申し込み・問い合わせ：ユニオン出版ネット(出版ネットワーク) FAX 03・33816・2973

メール nets@jca.apc.org URL: http://www.jca.apc.org/NETS/

### 諫早忠義さん

J・C・J神奈川支部会員の諫早忠義(いさはや・ただよし)さんが10月15日、急性心不全で死去した。

日本労働者教育協会の勤労者通信大学講師。享年86。占領軍の弾圧で閉鎖を余儀なくされた機関紙連合通信社の再建に努力、常任理事、専務理事、副理事長を歴任。「ひとくち労働運動史」(機関紙連合通信社刊)など著書多数。



●コミック J・C・J よしむらまさお

## ホームページから

<http://www.jcj.gr.jp>

### ホームページとメルマガの連携

@「J・C・Jふらっしゅ」という〈有事法廃案をめざす実行委員会〉から、メールマガジンが意欲的に発行されている。この212号で総選挙に向けて(憲法再生フォーラム)と連帯して総選挙に向けての護憲・平和への共同アピールを掲載し、賛同者の署名を募った。

@ホームページでは、このアピールを「声明・アピール」サイトに転載し、共同歩調をとった。その後、「ふらっしゅ」は賛同者への署名の呼びかけに重点を置き、アピール本文はホームページで読むようにリンクした。投票当日までに呼びかけ・賛同団体19、呼びかけ人27名、賛同署名者266名の成果を得て、これからの反撃の足場の一つを築くことが出来た。

@ホームページへのアクセス件数も、連休明けのウイークデーはこれまでの平均を30%上回っており、メルマガとの連携効果は明らかである。ホームページの即時的情報収容能力と、メルマガの機動力を組み合わせたキャンペーンは、結果的にも成功を収めたと評価できよう。さらに連携の高度化を図ってゆきたい。

日本では「国際貢献を言う人たちは、自分の汗や血を流すわけではないです。」  
1年間海外に行っている間に、有事法制はできてしまつたしね。海外へ長期間行つて帰ってきて、前は感じなかったのですが、今度帰ってきたときは、世の中が変わってきているなと思いました。  
身近なところではパートを借りるのが大変です。海外に行つていて昨年度の収入がないという、うさぎさん奴と思われようです。  
——それでも昨年のスピーチ

「国際貢献を言う人たちは、自分の汗や血を流すわけではないです。」  
1年間海外に行っている間に、有事法制はできてしまつたしね。海外へ長期間行つて帰ってきて、前は感じなかったのですが、今度帰ってきたときは、世の中が変わってきているなと思いました。  
身近なところではパートを借りるのが大変です。海外に行つていて昨年度の収入がないという、うさぎさん奴と思われようです。  
——それでも昨年のスピーチ